

令和5年度 墨田区立菊川幼稚園 経営計画書

園長名 谷澤 あゆみ

幼稚園目標	<p>人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で豊かな心情をもち、主体的に生活する幼児の育成を目指し、小学校就学前に必要なたくましく生きていく力の基礎を培う幼稚園づくりを進めます。</p> <p>○元気な子 ○自分で考える子 ○仲良く遊べる子</p>
目指す幼稚園像	<p>幼児にとって ○明日が楽しみになる幼稚園 ○一人一人が力を発揮できる幼稚園 ○人と心がつながる幼稚園</p> <p>保護者にとって ○通わせてよかったと思える幼稚園 ○幼児を中心に保護者同士が学び合える幼稚園 ○安全で安心できる幼稚園</p> <p>地域の方にとって ○あってよかったと思える幼稚園 ○幼児が素直で明るい幼稚園 ○地域の教育力が生かされる幼稚園</p> <p>教職員にとって ○使命感とやりがいもてる幼稚園 ○創意・工夫を生かせる幼稚園 ○互いに高め合い、協働する楽しさを感じられる幼稚園</p>
目指す子供像	<p>○元気な子 基本的な生活習慣や態度を身に付け、自立をめざして生活が送れる子 個や集団での運動遊びを行い、積極的に体を動かせる子</p> <p>○自分で考える子 善悪の判断や自己抑制を身に付け、自分で考えて行動できる子</p> <p>○仲良く遊べる子 相手に対しての思いやりの心をもち、一人一人の違いを認め合える子</p>
目指す教師像	<p>○専門職としての自覚をもち、謙虚に学び続ける教師</p> <p>○幼児・保護者とよい関係を築き、親身に接することができる教師</p> <p>○「子供のためになるか」を評価尺度にし、協働し誠実な幼稚園運営を進める教師</p>

項目	取組の視点	取組指標	成果指標
保育活動等	幼児の主体的な活動を促す教育の実施等	○指導計画に基づき、発達を踏まえた様々な体験を通して、幼児が興味をもって主体的に関わり、学びを深める環境を設定する。	○個々の発達段階に応じた課題の設定、園児が自ら選択して活動する時間の確保により、個人内の成長を促す。 ○菊川小、菊川公園、大横川親水公園等を活用する。(通年)
	特別な支援を必要とする幼児に対しての、組織的な支援等	○管理職、教職員全員で組織的な対応、個に応じた指導を展開する。 ○作成した個別指導計画・個別の教育支援計画に基づき、成果と課題を検討していく。必要に応じて専門機関と連携し、積極的に活用していく。	○保護者と方針や情報を共有し、よりよい就園・就学支援をする。 ○個別指導計画・個別の教育支援計画を適切に引継ぐ。 ○巡回相談を活用する(年間3回) ○小学校と連携する(巡回指導教員、SC等)
	将来の自立に向けた保育活動・相談活動等	○教職員、保護者、地域、関係機関が連携して幼児、家庭を見守り育てていく。	○「チーム菊川」全教職員10名が組織的に保育をする。 ○ネットワーク作り(菊川幼小運営連絡協議会・保護者の会他)
	教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組等	○研究のOJTと仮説・計画・実施・記録・分析・検証による保育の質の向上・改善をしていく。	○自己申告に基づくOJTの計画的な実施と通年の進行管理による資質能力の育成。

様式 1

	幼保小中一貫教育の推進等	○小学校・中学校教育との関連、系統性の理解により、就学前教育の意義と価値を再確認し、意図的計画的な保育実践の改善に生かす。	○スタートカリキュラムの改善。 ○間接交流・授業参観の実施。 ○菊川小学校との連携。 ○養護教諭、栄養士による授業。
生活指導等	問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等	○「きまり」をキーワードに小学校生活を見通した教育を行う。 ○登園渋り、いじめや問題行動、幼児虐待の予防と早期解決を図る。	○担任や保護者からの情報を全員で共有、対応方法を共通理解。 ○「いじめ防止基本方針」の理解と事案発生時の組織対応。
	基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等	○「早寝・早起き・朝ごはん」「あいさつ」「思いやり」をキーワードに小学校生活を見据えた心の教育を行う。 ○言語活動により温かな人間関係を構築できるように大人が手本を示す。	○園だより、学級だより、保護者の会を通じた家庭への啓発。 ○幼児への統一した日常的指導。 ○生活習慣の確立、関係作りが難しい家庭への個別支援と助言。
	安全を確保するための取組等	○毎月安全指導日に施設点検し、速やかに補修整備をして改善する。 ○安全管理体制を見直すとともに、幼児が自ら安全な行動をとれるように安全指導を計画的に行っていく。	○「危機管理マニュアル」見直し ○年間計画に基づいた安全指導(交通安全・生活安全・災害安全) ○学校情報連絡メールの活用。 ○近隣との連携、人的配置、施設。
	幼児や保護者からの意見や要望への対応等	○幼児、保護者、地域関係者の意見や要望を真摯に受け止め、誠実に対応していく。	○日常的・行事毎の意見交換、年度末の保護者アンケートの実施と速やかな回答のフィードバック。
	危機管理体制の確立等	○教職員の危機意識を高め事件事故の未然防止、感染拡大防止に努める。 ○服務事故防止に向け意識啓発する。	○「安全教育プログラム」や報道を活用した研修、服務に関するミニ研修を実施する。(随時)
	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・園運営等	○園経営方針の周知徹底と理解を促し、具体的な行動例を示すと共に、日常的な意見交流、改善提案によって、実践を向上していく。	○週計画による把握と指導、振り返りによるフィードバック。 ○年度途中に計画を随時見直し、創意工夫して実施する。
園の管理運営	幼児の実態に合わせた教育目標設定及び評価等	○経営計画と経営報告書を提示説明し園目標の共有と学級目標、個人の目標を連動させ、参画意識の醸成、年度末に学校(園)評価を実施し、保育の質を確保する。 ○区幼研、園内研究、年次研の学びを保育に生かし保育の充実改善を図る。	○5歳児きく組4歳児ばら組の学級経営案に反映させ、当初、中間、最終の自己申告面談と保育参観、助言による評価、振り返り。 ○保護者アンケート 100%回収、関係者評価の肯定的回答80%以上を達成する。
	教育環境・設備等の整備状況等	○園予算(公費)の適正な執行により教育環境を整える。 ○区教委、園長会、他幼稚園と連携して必要な設備を整える。	○園施設・設備の点検。よりよい教育環境作りの計画・必要な修繕等を区への具申提案により改善する。
	子供の人格形成に直接関与する教育活動にあたる者としての自覚等	○社会人、教育公務員としての使命と責任を自覚し、教職員の服務の厳正に努める。	○服務事故防止研修(毎月)振り返りチェックシート(年3回) ○報告・連絡・相談の徹底。 ○法令理解と厳正な服務の指導。
	教職員のライフワークバランスの取組等	○業務の効率化を進め勤怠システムにより教職員個々の超過勤務時間を把握管理する。	○全教職員月毎の超過勤務を45時間以内にする。全教職員年休付与日数の50%取得させる。
	教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等	○保護者や地域、関係者以外にも広く園のよさを積極的に情報発信する。	○園だより学級だより配布、未就園児の会利用促進、ホームページ、園内外掲示版の充実・活用。
家庭・地域連携	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進等	○保護者や地域・関係者から意見を受けて教育活動に反映する。 ○保護者も幼児とともに楽しみながら学び合える場と機会を工夫する。	○計画的に保育公開を行い、保護者の意見を改善に生かす。 ○保護者の会の活動、連絡、行事の方法を工夫して実施する。
	地域や施設、外部人材を活用した自然・社会体験等	○50周年記念行事を通して幼児の地域や園への愛着、を深める体験を設ける。 ○自信をもたせる多様な体験作りに努める。	○保護者、地域、関係機関、近隣小・中学校・保育園との相互理解・交流・連携を創意工夫して体験の機会を増やしていく。

様式 1